

土地利用型複合経営の園芸部門・ 小麦部門の収量向上

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

○法人は、長浜市内で経営規模約 60ha の土地利用型経営を行い、経営の一部門として露地や水稻育苗ハウスを活用した小ギク・中輪ギクや切り花ハボタンなどを栽培されています。

小ギクでは、昨年度湖北地域で初めて露地電照栽培を導入され、お盆の需要期に合わせて出荷できたので、本年度はさらに栽培技術の向上を図り、収量アップに向けた支援を行いました。また、小麦部門へは施肥改善による収量向上への取り組みを支援しました。

【普及活動の内容】

（1）露地小ギクの電照栽培

小ギクの電照栽培は2年目となり、本年度は定植後の整枝や病虫害防除など栽培管理の実践と、お盆の出荷に向けた消灯時期の決定について助言を行いました。

（2）小麦の施肥改善

小麦は緩効性肥料を用いた全量基肥による栽培をしておられましたが、越冬後の肥料切れにより生育や収量が確保できていませんでした。そこで、分施体系の実証ほを設置して、2月と4月の追肥の効果を検討しました。



写真 露地小ギクの電照栽培

【普及活動の成果】

小ギクでは、栽培管理を徹底したことにより、お盆の需要期に集中して出荷することができました。収穫本数は、昨年の2,700本/aから3,080本/aへと増加しました。しかし、短期間に収穫作業が集中したことにより切り残りが生じたため、作業体制を改善する課題が残りました。

小麦では、2月と4月の追肥により収量・品質の改善効果を確認できました。しかし4月の追肥は水稻との作業競合が発生するため、基肥と2月に緩効性肥料を施用する2ショット体系を提案したところ、令和2年産に向け栽培面積の半分で導入されました。今後も、生育や収量の確認を行う予定です。

今後も、土地利用型複合経営における花き部門と、基幹品目である小麦の収量向上を図り、経営のさらなる発展に向け引き続き支援していきます。

◎対象者の意見

小ギクや中輪ギクの栽培技術をさらに高めるとともに、小麦の収量向上に取り組んでいきたい（○法人役員）。